121.27
O625h

鼻くらゑ

野々口隆正 著

国立国会
29.7.22
図書館

336291

移りてしばしば出あるいでぬあるはれもありしを。
いまハ市まち村里になん多くなりまさる。ある片
のなりすまるあしり天狗。はなぢとまてハまちあるぶ
鼻のなり是ハ都はまりく鼻くべせんとて
高山なり。こやらまつきて世ハ大路をとえる
こんゆくはをとし女のをきなきをつどへさくもの
教る家ありさの花ハ札ハ行くりてあ
書をるくり鼻高し。あるいしくうもとまり

ものがたりしてうろもるよ。はなはなまして高りけり。
いのやうをきけばわが鼻ハ高くなり高かくなりし
を所なりる人の切なのぞくあるうなよ。今まと我を
高くしくるる弟子のぞくよりかくの如くのぞ
ある なり。我ハ手のぞくれるなりまあらぬ。能
謡歌もよむなり。素読をふるなり。算術も
をしるなり。高ぐるも教る なり。花もさくなり
茶もたるなり。その作なるまれとしくまへ。

をへまゐらせんとしめすまゐるれまゐらせしに
へるととへば。年ごのあひだ世なくなりて。今は某の宮
の御直筆ゆゑ。とうてめさるべきの宮れきこゑ
へる手本をこせまゐへとうへば。いなぐ居るものあら
ん。うれしさの貴きかの名をうけて。ひが鼻を延さ
んと出る謀なりとおもひきこゑよみ人る狂
歌をこせまゐへといへば。狂歌ゆゑ俳諧歌
をよむなりとおもひ。その中もやゝ時をとへば天明の

こう木阿弥金掌なるのこゑる。狂歌なり。蜀山人
のふむじくちなり。高ゑあれどその狂歌むじくちは。
才智なくてはいできがたきより。ひが俳諧歌坊
四方歌坊真顔大宗匠。工まこゑまれ才学なき人
もいでくべく。歌は似く歌はあらぬ一種のふりを
なこゑ。古今集の俳諧歌の名をうけて世の人を
あざむきまゐへり。英雄のこゑあるこゑや判者
披露とおもうとをぐるまれば大人と名のりてよをは

のての字も忘れて毛氈（モウセン）のくまなく敷く人を
うらやし我をうゑる天物よ有るかぎりみちこれよ
まれるくるしとて花のうと茶のうともとんと
杯を比ぬるとて切つうれば立ぬ。
木もあらぬ笠もあらぬ市のこぞと
ごとく有るとの葉四五人うちよりてあるハかで
づりくさうつぎあるハ比ざゆきうしあるハ
つ枝つまてをる以人あり。鼻のいづまもこうくゆ

れバさしよりてきくまハ。わのくひくきこゑ
ひとりこもたるなり。耳をとをくひとりくの
ひかうとをきけバ中よりまはうゆる人ふ
つどくるものハみまうのろ俳人（ハイジン）てさりきらひも
やきまへ人をつけざるの味（あぢハひ）も忘れ。宗匠（ソウシヤウ）の心を
ちり。そのうのむうとをのこいひくかうんうとをのこ
杯よりものなり。ひが附（マク）る句をよよかうひこうて
俳諧（ハイカイ）なれ。さるをえんわくる宗匠（ソウシヤウ）のあきハううみ

なり。孔子も時よあさびとひぶらとひざこそ松もれ、
いでらるれとうち歌ひくく。かさそこの中のうどの比和
めきいめをきくべ一の花も久しき下手にてある彼
ぐかちうるとをびきるね。かうんとて出る俳諧ゐれば
いるるもしてあうんとそうろうぐべ花。流行をし
りく宗匠入うろうをさぐるうとは。中はのぶあハ
あらじ。くめの巻もやがあなりとひふ。又ひらり。なきあ
ふまうとの風流人まてあり。ゐれば。あのようなづむうと

なりきの。その百花を高ふふあく産をかけうかと
ゆよあさがきのごとくそうりあゆなぐべし。
されば中とハいづ目のこ摩るもつるなり。かうん
うとをもとめびこぐ。その日をこのうてくるなり。
かうてこそまうとの俳人ゐれ。世の中をうびるなかれ
を松きてハ中をうとの俳諧をうハひとりぐるあぐぢと
いか今ひとりハ中ゐ出ぐ松く鼻ゐくうあ。くゆそ
松をゐ人はいぎあり松くうはきまり。かれそ

附合ハらのまねあり。費匂なゝでハおもしろきはし。
ゞ祖師桃青翁ハ大徳の世捨人あり。世の人禅機
のおぐれるゝことハ志ゝびゝ。こゝろのいとをてらし
匂をとゝのへ。もてなやせども禅学あさより
その意をしゝまし得ぬ。ふる池やかはづとびこむ水
の音など。無門関の蘊奥をつくしゝるものなり。
ゝふらまつどべる。能人ゝ。ものしるゝとゝあり。祖翁
乃匂ハ文章高僧の偈よりとゝいひつくされぬあぢ

もゝのあるあの方をさとゝぬ人ゝてあもしなもで
ひそめくらぶ芭蕉の下ハ打つもる木の葉天狗
とゝゝゝけもバ足もとやゆきぶく。
ゝ見ゝてゝ世ゝふり池のあをゞへるゝゝをゞの
かゞよふ春雨。やゝられバ又をさあきをつゞへて
唐土の経書の素読を教る家あり。さしのぞけバ
以人あるゞの鼻又ゝかりゝり。あゐいてゝもとは
りそのひめやうをまくよ。世の人大ゝ文字を志ゞ

毋不敬
春厓寫圖

漢魏叢書
月知錄
丹鉛錄

ゑにより苟且にいひづる言語より起りあく。
いはんとするほどのことを俗あり。嘔吐する
へど、ゐぐ四ハ世の中此人ハ多くじせしのごとく杯。
なるべくなりといはさしば文字のことと中さんさ
傍者おのく和を成めり。その傍の字のこころハいかと
いへも文字ハ六書といふことあり本と周禮よりこえく
説文ハゑにを解り。第一ハ象形第二ハ會意
宋の王安石ハ會意をこのこく字説をなり。

ゑにを成すこれ人ハ。傍の字ハ人扁ハ雨ハ應
ぜの雨といひ字を書なりされバ人の雨ハ應
じてこれをいひまうするあれば古りいふ
とこるのかをこしをらべくさきばとれ中さん
いよいよまへる應雨といひとこの邦の傍者
書家ハつねハ如こうなれど。唐此人り例證をこべ
唐宋の人やくさそめん。元明の人や好きいでん。知ら
よ用ーといはるそハ考へ校べといひく。さそいはやう

文字は相臣なるハ俗傍のことなり、傍道ハ治國平
天下の教なり、真傍ハ天下の政事をとりて萬民
を救ふことを本意とし、日本ハ小國なれども文盲なれバ、
わづらしき大事のもあり、かく貧困なせりてあれど上より
ものを用ひまゐらせ、あれ中義なるものこそ
我今ほどハ宰相なりてあるべきことなり、
宰相となりてこそ、いかなることをもなすべ
きゆゑ、異端をしりぞけ禮樂を起し、井田の法を
行ひ、庠序を設けて萬民に道をしらしめ君を
して堯舜ならしめんとの壁をこれハ表子
才風の詩をくまきてなり、まハさにぐつさな
るこそ、ほめてこれの書体ありよりもとふり
ふをわらひて、世の書家どもこれハ米芾をくよ
われハ徽明をくよといへ、人の道ハ子昂なり、
これハ董其昌かきなりなどいひそてこそなれ、など
鍾繇張芝は肩をならべんとハ何ものハさる中義まそハ

子昌都を書奴とあざけり。義之家俗姿あり
媚をとれりといひくさしれるひとあり。われも
ひだ手をなげ。古人をまねるはあらず。又素船人の書体
をうしとりて書家と名のりをするものあり。御家流
をきて晋唐の遺美と思ひをるひと一般の見
識なりといひてるうの人の鼻ハ顔よりさし。
心をしり隣よりおぶ中垣の外や内なるうちや
そとなるうちいそぐ。ひくるひとをうる。天文地理

周易家相方位指南とゆふ札けてあり。中主の鼻も
又さくさくとゆ。ちかく近く出をれバ立よりて見ハ
加ゆなりより此ゆふの都はいでるものあり。家り
病るものあるなり。そのうとれうるかをばうるな
ひくくべとゆ。やをきうとあり。うあるとゆふな
よりあげりて札のまへさよれバ笠とりあげく
額るまへくちのうちもてとあへどとをしたくて
さゆりよりかくへ筆をなほしまそりゆ

やう。本卦ハ水火既濟なく変爻ハ水山蹇なり。
卦の象をこんるまへ。易ハ下より上へ進まるなり
より。水火既濟ハ☵☲陽の位にして陰の位なる水火
未濟のごとくなり。火水未濟ハ☲☵陰の位にして
陽の位なる。これを聖人の未濟既濟と名まへ
るこゝろハ。陰の位にして陽の位なるものハ生ゝて
やまぬ理をふくむゆへ未濟なり。陽の位にして
陰の位なるものハ志まつとゝのハざるなり。これ易なり

既濟なり。されバこの病人ハ危し。されど変
爻の水山蹇ハ火沢睽のごとくして時を待てとなり。
東北のくまゝハ利しゝ。西南の医師を求むべし。
本卦の陰陽まじりて和せざるをこれバ女が家
のごとくなり。これよりて病者こゝに
まうゝと毎ゝ臥ちぶあり。大ゝく家をくりて病者
を治とるべし。家の図をかゝゝよりよへ所てゝ
しゝよりのあきところをなほして云きせんと

いかまくをうりてやうしやうをいとなみ家は病者ありといへるハ
いとをうりかぎはをうることをいへるなりといへるハ
いへあるべきことなり。水火既濟陰陽和ぎるハ
いとり化ることなり。卦爻の陽変して陰となるを
きはめしるべしとあるどりていつまり
いへるハ易学と伏羲文王周公孔子四聖人の手なり。四聖人をあるどるハ四聖人をあるどる
なり 四聖人をあるどる天をあるどるなり。その罪

汝の身は悪しとやまくはさハがわろうりき。
いろりを、ぬさあたらくその家相方位をつきてはぶり
くきことあり。このうち相馬く肝ぶる家相方位の
書八十くわきくく。郭璞の元経よりもあて庸愚の
協紀辨方書などその外そのすぎの書をあきなくよく
わるくは一書のうちまて寸指せることと相馬く
一致せぬあるべきである。世は名うき家相見うこもて
あらうあつくれる家のほどもなく相とうへゆを

つねまれることなり。そいなるとりゆよりそハその家相見うえあやまり肱るなりといひ。以ま故乃ふるるいへまもさること。ありといへど。そハ。その人乃命分うもきゆ。ひ。ぐあつ。ゆるうとかあらじとゆ。以人をいもるもの。のよと杉もいひ。さらば天文のうと。向ま。まん日月ハいろあるありて陰陽の精なり。その質ハいろあるあで。水火乃凝り。なり。とうゆ。さらば日月乃外ゆ水星火星此あるハいろといへど。そのうとつまらず。研究せんと

いひ。いよすうなで。まくその鼻をひ。ぐんと杉をへれど。これハこの鼻よりく。妻まをやーなひをるものあれば。と杉もひくしてその人をもちゆ。ゆくこのうハ家相。方位まゆゆ。ものもの杉ほこうなり。ゆよハするものもの又杉ほくなりゆく。

四をハなほまで。家乃方ゆ。へ杉もひらぐ。をなる。なこのりひる。四五人うちつぐひ杉のく。硯ひきよの七。さをるとうあり。歌り會あでありるうと果

てあるくさまなり。あるまはにくるを告くるもち
いぢる鼻の穴にづまりけるばかりのりをつきてゆく。
ひとりがいはやうにふう會主も杉の北ぢり上手の
うりなれどてをを分とこの人も忘ぢぢ假字もつね
まづべくこのこかくなり。今きう歌学をせよ。
詞の玉の緒。うとぶのやちまるはうぢやあるらんそも
やうらぬまやあるらん。もぐく本居翁の志ゐ杉
まへうとふよろげ代りゆくあらむべくらぬうと

なるをなまくの中まなびて学ぶをこどーのんと
するが如きなりし。いの学者ともやうとも
ぢれば故翁をうんとまられて本居の大家なる
うとふ学ぶきあり。しくあれどうち得たるも
なしをとあるがゆくうちよ。わが門は侍りとそ
学の人ありぬのうりの人はいまへの人は赤人
玉のをやちまるとはらぎりあどうふよくうとれ。
本居の近体古体をわかく頓阿法師の草庵集

をのゝハうゝ比くかりゝ。歌ハ古今集こそめぞ
ゝれ。その序もうゝ見うゝあるよれをふうとをゝるあ
きくもあ小つゆさ比ゝ比ゝ比ゝ

その時分はおまてを一りうとてこれあるべき儀。公家流の弟子とぶは人ぶ上手なるものと世の人はおもはれより書おかるるもおよばてをいとぶつるはうろくにするもれよりぶのとをなえあるべきとぶは人ぶすむことまくめづらしき趣向をもとめあるべきぶ。らまくをまてよろしきなりつとめぶ

一身をのべさんとおもふ人ハこれまてよるべきなれといめへも又ハられぬ。いやたてるのこれる一人り獨ごう

をきんぶいづもくしうこのまとをとぶ。ものあるうこハ萬葉集まてをぶり。後の世のうこハ古今ぶ。ぶりいまり和歌ぶしてるるこぶ。定家家隆あど名ぶきうこハ名ぶけれと。歌学もあさはなるものこてこしるもあやまりのこと和歌ぶり。陰の藻屑ぶ人ぶるごとく。定家卿ハ手ぶ人ぶるきぶ人なるを。その百人一首色紙ハちぶの金ぶなるとをあれどこずかる短冊ハとぶとこの銭ぶもある

あめ一つ耳をとゝめ眼をひやしぶるなりいるゝ
ともせんかとあし。今そあれ後の世よハがてする短
冊をちぎのこゝねさかする世あらんされどそれまでも
わがりちゝもちぐさしあるいひしびとうちつゞ
きゆく。らせの又あるくよりいりぬ。
わをいづるこゝろのいづをわをゆくなぐれの中をを
あるあるあるあるめ。あのしり天狗(テング)ゆをしらあくを
天狗どもハ松をくハこゝるなびるゝこゝ根本の葉(木)天狗

まてありけり、こゝよ中ゝ真(まこと)の大天狗(タイテング)まあれく
こゝろこゝに松ゝはゆゝる金毘羅(コンピラ)の神をまつれる
とゝろあり。天狗(テング)の松てをを松ゝ下ゝてあれど
立ゝりくゝふゝをぐゝまゝとの大天狗まあゝあゝ
へゝこゝねぎつゝその夜ハこゝくはゝりあゝぬ。
うちまどゝめりと松まは所をきまる帳(とゝり)をゝぶて
まちいでゝふをゝれば、繪(ゑ)をそゝる大天狗(タイテング)のゝ。
ちゝくゝ松ゝまゝ大ちゝくゝのゝまめ松るくゝ

336291

いれば汝がこうぎのくまくまさまめでゝねがひう
ごとく大天狗ぬあつまりつゝまゐところへとゆ
ゑ。ちもことのくまうゐこのと杉くそとまたさきもれ勢、
いちもなくなく。杉屋そこをとうると杉かへるほど
ま山川あるところよれろまれぬ。玉のうてを金の橋
そてうねてあり。うとうとゝ猿田彦の神。すうこし
まめとうなり とうへゆびく門弁よあをいしく
うちよりゆゆ方杉ゆゆ南杉ゆてのびろ

らうなるとのまいびとまり、猿田彦の神しでむこへ
つまびくあぐうり杉まうを金毘羅の神ゆり
大狗を猿田彦うり神ゆびき合せつまゐ猿田彦の神
くれこをゆびくのとまゐやう。時よくも来うゆうゆ。
いを利者とありて鼻うぐうあをびせんと杉ゆ日
なり。いを馬ぐゆのうとちまりゆん。そうゆかぐみゆく
ゆとのとちゆゆう杉くまち居うり。一番左 荻原
右孔子 二番左日本 右唐土とまくよゆうくいうゆうと

をりゐるまうからんとおぼしをるほどもあくそのうちと
たゝまりぬ。釈迦牟尼ののたまひいづるをきけば天上天下
唯我獨尊とのたまふなり。孔子は天徳をうけて生
せりとのたまふ。あのしり天狗うけをきくく如来の
唯我獨尊ととなへうつくしきもなき天狗なもうれはあさる天狗
はあしくときをるを猿田彦の神の判しうるしも
をきけば猿田彦の神ありけり。仏家は方便の
いつたり拙く、よくうぐせはこの唯我獨尊も後世の

仏者の附会あるとのたまひつる如来のうをを
えりうるへた微笑しうる拈花微笑の印性
の微笑をつたへたるなりとあり。猿田彦の神
成仏は我執を出つる悟なるをうれはよりて又うれ
をさとりは我執をたゝ。天狗はなる僧俗
拈花日本は日蓮といふ天狗いでいたるやう。
釈迦八月支国の法華経の行者なりうれは日本国
の法華経の行者なり。されば釈迦と我とをなら

ぶれば日月のひかりほどその徳をかがやかしめありと以て
なり。釈迦八月十五日の夜の論はさしおきて。
日蓮が鼻をもってまさしきやうなれば。唯我獨尊
の附鼻なるべし。二乃至無なれば。めづらしかるべし。
たゞめづらしきは孔子の鼻なるべし。見てき
高からぬ鼻のよくうれはまことにうるはしき鼻なり。
顔回がうれを仰ぐは高しとなるべしの鼻
のうらとをやいはんに。謝上蔡もいかるべきに孟軻が

天下をまもる天下を平治せんことをほりせんも天下を
平治せんことをほりせば我をおきて
誰とかいはんとのたまへる天狗こそ孔丘が
天徳をわきまへる生せりとかくべし。
せる真情なれば。さのみ高からぬやうなれどもうるは
ゆるせるうちをさとりてうれば。ところの鼻なり
ある。ところの鼻のうちにて教あれば。
この道をうるうるを四書五経の素讀を終り

平仄韻字のなくぐるをれば、ほとんど鼻を低しぞあ。後ハよむほどのおもしろなり。かるるをこそ
ぶめるるへなれば孔子は勝をゆづるとのたまふ。
かさねてのたまふやう。世の人、釈迦孔子とぶよりハ、
あぐるは世の中のことをとゞくとありしあるやう
まことにくるは、後世の仏者、儒者のあげ道をとくせん
こゝあらいふことをまことにまくなるあるべしとのつゞく
なれバわきまへべし。釈迦まことに、神通自在にして

天地のうちをくまなく現在未来のことを知りてあるべ。
日月星のあるやうくまなく知りてあるべきを。義顧
阿含華厳入る須弥の説いまの天地より多くぶ。
ちくまこと日本にてある法ハ。そのあるなものを知り
こと唐土世界、天竺にてうき人をあまむりより同じ法師
の中にまことのありぬことを辯へ一隅辯といへる
書をあるハ花厳あるもありまたり又辯安といふ書
もありてそのあるぬことをあるこてありそのこと

ことをする法師、五世阿毘曇論九日月行品を又ゐき
あのよいへるを、これは日月の大きさをさのこゝろ
ぬやうよいへるハ、かゝりなり。これをも彩西ノ
神通ハ幻術なくまことの神通なるあゝぬをとあきら
かゝ。又後世の傍者かの彩西の神通をゝゝやゝ。
孔子も又ゝまれあゝゝなるごとをも言りてありし
あゝやうよいにをしハやゝぬべゝ。孔子いとけあゝく
父叔梁紇ゐ四歳まで父の墓所をもゝで

ありしを母顔氏乃ゝゝまこのれるまつき合葬らんとゝく。
耶曼父乃母ゝとゝくゝゝめて父の墓をゝりしこと
あり。天地のあひだゝゝゝ

東夷よりとるよりぞといひ、日本ハ何ものゝ子で有しと
あり言挙せぬ國のこゝろあるべし 猿田彦の神判し
てのゝまゝ、日本よりそりく日本のめでたきをいひ
べし、日本 萬の國ハ君國なり 今ゝあれ後世ハ
萬國の王どもこゝを日本を君國とこゝへ、 天皇を
萬國ハ天皇とあふぎ貢をいれることく順ひ仕ふべ
き國なんあるそのきざしのあらはれこゝゆゑ西洋の
戎ら萬國ハ中ゝよりよき國ハ國を構こいづして帝國

の國とゝはなり、世界ハ統國をきざすきざしみあら
はれ、日本の人ゝそ傳者佛者ハ行ひ行きれく唐土天竺
をとうくあきき國と行ひ、こゝろ小國あり東夷なりく行ち
ひてハあれ、西洋ハくくく

インデヤ、トルコ、ゼルマニヤ、ロツシヤ、（一云ピエデヤ）なり。のこりの五州
をうしなはんこと日本に於ては、於ては、於ぬこと於ある中にも、
天皇の大きたぢり萬世ひさしかりしまりねでぬ出さ
ぬこれるほどめよはあることつついでなれいふべし。儒
学者乃中にもこころぎしをのこハこのことをよろこびく
萬古唯一姓などいひまり、そのこころぎしハよろしられと、
なほもろこぐもぬいひざまことをつとなられ、日本の
天皇はかきり姓とりものと於ちしまきねなり、姓ハもと

家系をかくるものの中のなれバ姓乃於ちしまきねでうと
ばかりあり。されど親手ハ姓をまられで臣とある上古
よりの制なり、（君臣の刑法君臣の義のことなど上古制度考中古
とかい書をあらりてくちくりべし）
唐の代乃政を学び上古乃こきびめをあらためる
こと律令格式といふことをうてるまへ百八なぐ名ぶこと
なりき、このうちもくきよりめべし。その学びめまへる唐律ハ八議（制度考より）
といふことありて、その八議の中ハ議賓といふことなり
られハ唐ろうりまてハ先代乃儀をうけく皇帝となること

なるよりせんだいの後をば國賓となしかくうとあるなり
その國賓なる人も罪ありても議をくわうるうとなれば
議賓とゆゑり日本にてこの八議をあるべし六議をさて
て議賓をもぢりめでくきうつあらばや天地
のもろもの國之常立神とりむ神靈くまあらば
靈氣あり たかまはて
萬國乃生成をさうあたるは日本を三十度より四十
度のあひだにはきまはり
神書要領 神代養枝異傳
等にくもくりめべ
この千度のあひだは寒暖とある用どよくよろづのもの

なりとこのほりよろこめぐくてのしむべきところとなん
外國人乃うゑやむところなる造物主乃日本つくりめべる
やうを考るに地を和国へ似めぐらべめぐりよ似あきあら
海をめぐらしひろくせむらまでよきあるどよつくりは
水とせとをらよあくよろしめくはぐしを四國ひあ中東
とミよわたち浦まま 漆をかあくして船のうをを
よくあさしめ 金銀銅鉄をかあらしめくを敷く
武くかあ一つあふかなり 米のあぶくづきてうきまきと

ことぶのごとくきうとふなどらめべき國ゝなくいと清
くいとめでたき風なんあるゆゑ唐土のいふをきけば
聖賢首出乃軒と伏羲氏乃中れ蛙大海を
忘ずといめるとくへ乃ごとく弁を忘ぬうとゝ忘なり。
その首出といめハ易乃繫辞よりくる神農氏の稼穡
文易をもつゝめ。黄帝堯舜氏の舟楫宮室をつくり
ゆめ〳〵ふぶをいめあらん。日本の上古いかゞしらうゝと
かよふぶりし世ゆゑ稼穡文易舟楫宮室の類

みなそなりてありしなり。西洋諸國みなさる聖賢、
ありてしくりをめいかゞ唐土とかよハざりし世ゆゑ
ゆゑ作のことをあらりてあり。もろ〳〵あのことさる聖人
ありしなりと作ふハせぞ。日本の儒学者ハ癖として
何事も唐土よりたゞまりと作ふ。唐土人乃自高
ゆゑハさ作く弁を顧ぬらろ挟さなりうとる儒学
乃ひろりふぶりし上古ゝ人乃道をもつゝざりしなり
とゝづくも作ふくるもいふ教ふ。あきまく〳〵ちをき

柱事あり。唐土齊の王蠋が忠良二君に仕へず。烈女
二夫を更でとりくるこゝを、此はてもいとゞく
そうそやきらとあり。傍道のわりきり日本の上古
にはまさりてめでたきことゞあり。古語は陸行は草
生風。海行は水付屍。大君の故へ死なの、長閑はは
あらじとのたまひ。うのうちは安閑として世をおくる心は
あらじ。大君の為は命をすてゝとのたまへり。
忠良の真情はあらじやう。おのよりておくべき悪人

もあれ。陽武は其君を殺して代を更めるる不明
もあれ。孔丘が司職吏よりとりあげて大夫とまで
なれる魯の国を去りて他国の君に仕へんとしるる
あど。忠良といひつゝ。聖くとなる名はおびやかされ
て倫理もなげてをる世人にて行ふあれ。また
大臣貴命の后なる頂世理姫命の歌は吾は安やし
あれは御を置て男はあゝ。御を置て夫はあとなる詞
あり。烈女二夫を更でとりくるとゞはまさりてのこ

風俗の厚うしてあるべきことなり。唐土
ハこゝ〳〵萬國の中國なりと名のるハ私言なり。日本の
儒学者ハさるゝ質直なるところありて此の誇言をいか
ばかりあれど西洋人ハいうけいるぬうとなり。彼一聯地
ゆきて世界を都児格あるとて中國とハいはず。されど世界の
真の中國とハ日本なり。そハ天帝天神の高天原より
これをつくり葦原の中國とのたまへるところあれバなり。
葦原とハ地球上萬國のいやさきにいでさしし世なり。葦

の中にいでさしをのたまへるなり。神代ハ葦原
豊葦原とゝ人ハ萬國のうちにて日本のうちとハあらざ
葦原の中國。豊葦原の瑞穂國とゝ人ハ日本のうちにて
あるなり。津國の難波。大和の奈良とゝ人ハうちなり。それ
どゝれハ今ハ日本ばかりの私言なり。外國へ對して
ハ称れぬうとなり。そハ萬國いやさきに日本の屬國なるねば
なり。唐土人ハこゝ人ハその國を中國中央とゝ人ハ私言にて
屬國なるぬ國へ對しいやさきにハいめべきうとなるべし。

政信寫

又屬國なるゝ國よりいやべきことゝもなし。さるを
日本の儒者ハ唐土をきして中國中義といふなるハいと
なき狂ごゝろなり。
朝廷へ對して敬ふれあることく
毛ものゝやうあるゝ長崎へわたる唐せんきんなどゝ
如中義とハいはぬなり。もしこれよハ無禮なりとく
いふべし懲すべし。彼國の金銀無制ハ附錄なり日本
風土記ハ日本の歌謡をのせく。幕中義とらふるを
偽作ー「コヒノナカバナ」といふるハわるやくみるべし。

唐土人ハとゝろくる日本を屬國ゐせんと行ふこゝろあれバ
文事ハあづるべきこゝろを用ふべきことなり。ちきこゝろ
太宰純ハ重刻せる古文孝經ハ知不足齋
叢書ハいりゝるを。日本の儒學者ハいとゞきこゝろ以れ
なやせゞ。まこゝとなハなぐくべきこゝとあり。その序の中ハ
夫古書之亡中夏而存于我日本者といはゝとあれバなり。
文屬國ハ人ハ以りふゝなり。日本の　皇祖神靈
ゐ對して太宰純ハいるゝの委奴縣主　足利義滿ゐれと

しき罪べとりゆべし。日本乃食物と唐土乃食物とを
くらべるに唐土ハらくなりとあるべしぶあら
ゆる稲黍稗粱雜ハよりへるごとく孔丘のまれに魯の
くまひらりなるのうち稲ハなりしなり。いまも北京あるりハ
稲にとくなく粟をつねに食とし彼錦を衣乃稲を
を食ひとゝる。錦に稲をもつくるものゝ西北に
稲のとくなくしてとりしことを怪ふべし。東南にハ
稲あれども其の稲なほあぶら無まりハ半豚約のごひを

うちくるしく食ふ。瑞穂の國にあらぬ國の食物も
かくのごとくなりしまなきなり。晉の荀勗ガ武帝に飯進む
るをうく勞薪にて炊くものなりといへるにて
故車胤にあくかきうりしものなりしなどいやしきこと
ぐるあるべし。日本の人ハいきぎよくきよきことをこの
む故にいやしきものにても故木にく飯のくらとも
ぜぬを唐土にてハ帝王の飯をさへ故木にかきるる
らとくんえるり。又唐土人ハ人乃肉を食ふことあり。

日本より見て夷狄の風とゝめゞし、周の文王乃子
武王乃兄なる伯邑考、孔丘の弟子なる子路ら肉
ゞし、ほされて人よくこれを、介子推をもゝめ杯の
腿乃肉をきりて君父よ食ふ、ゝめしゝゞし正史野乘よ
をりゝゞ、ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ劉妾その妻を殺
しゝの肉をもて劉備をもてなすゝとあり、隋乃麻
叔謀朱粲小児を蒸て食ふゝをゝのゝり五代の蕓
役簡、ゝゝ嚴震獨孤莊も比ゝゝよ民間の小児をとり

てゝくゝり、ゝゝ人なほゝゝゝ、饑歳ゝ子をゝ人ゝ食
へゝゝと又歴史よゝゝえゞゞ、日本よりゝゝて上古より人肉
をゝ人ゝゝとゝゝ、ゝゝゝを俗人乃つくれる軍書ゝゞ
よ城中ゝゝゝゝゝゝて人肉をゝ人ゝゝゝゝを志ゝゝゝ
ハゝゝゝの小説ゝゝゝゝゝゝ

かゝぜ。萬里の長城もうちあれども人作あれだつとは
蒙古はうちそうれ。今もゝ離朝は取られぬ。日本の荒
海はうちそよはさぶりまハうえ長なども神造あれバ元の
世祖が十萬の船軍をくうぐんせりなどゝべそくあ
ぐんとしうちあめま唐土ハ大しあの勢すゝ仏でいと高ゝり
しゝの鼻乃なえくとしまりて逃さりゝ猿田彦
日本はもゝりくのうふやゝうれまつまて連めよ
内ゝもるとあり。ちゝきろハ日本の人武備ゝ

えゆるなり。美国とゆふ名ゝくなりゆゝは志ゝぐれてハ
外国よりうかゝふうとあるべし。神風をのゝきの気あゝ
れハれゝなるべし。海べゝは武士ハ自ゝは心を用ゝく
船軍のゝけはき大炮乃防きゝなどかねくゝろえをる
べし。外國人を懼るゝべゝ又侮るべゝゝ國忠の
ゝゝをゝめゝく　大君乃ゝあよいのもちをゝつべし。後行
ハ水竹発とゝへゝこのゝるとゝのゝとなんある。もとよ
り兵器利くゝもゝぐれくゝ勇めりと以ゝるゝ國あり。

又とつぐよ人日本ハ男女乃間こゝしきくまなりと所ゝ
ほむるなり。志ろるを近きころの和学者をこれハ伊勢
源氏をあゝくゝ。偏奉ぎるを皇国ハとなすあり
あり。たハ中古乃衰弊おゝくゝとなハ国のゝあゝく
べきことなり。又神道ゝるより弊帛をきり木綿
祥をかけ。鈴をふり祝詞をよゝくゝて八人乃病を呪
ひものくるほゝくゝなる人あり。これもまゝよゝなゝ
日本ようまるゝ人むゝ。よろづ真をもとゝしゝく武ゝ

正ゝく儒ゝくゝ雅やうゝをもつ。国のゝあ君のゝあ
よハ命をもをゝまよ。川ねハ身を謹しゝく父母の心
をゝ安ゝくゝる。兄弟妻子親族ゝまゝくゝ。ぢゝ我
よ志るゝぐゝゝものをよゝくゝあゝくゝとなすべゝ
ゝゝあをなゝくゝて人ゝあゝとなり。人のゝあをなを
へゝくゝりゝくゝゝるゝあゝ奇霊乃ゝとりをきゝとり。
上のなゝくゝをつゝくゝまゝり職業なゝくゝ出よゝくゝの
の條理をゝゝつゝべゝ。ゝのゝとゝ。ゝハ古書をゝくゝ

日本の書ぐれく巴しきくるなることをさとり、漢花蘭の書をもあづかへ、経史世の沿革をしり、律令萬國風俗の異なることをさとり、萬國の美を採集めく、日本の教を大成せんと欲べし。さまでもあるべきにあらず。唐土人の下に立んとを恥て、外國人にまして学ばざる君もつとめく、日本の教を大成し、外國人にまして学ばざるべきほどの人をつぎ〳〵するぶ〳〵あるべきのみなく、日本ハうとみし〳〵まるべし。萬國ありくのぞ〳〵をもつ異ども

をしとぐ〳〵ありしぎ。ときしるめでたく造物主の恩頼を報ぜんと欲く國を堅めるべき。猿田彦の神、もの〳〵天物をむりひて、のこるかやう汝ども禁むることバあり。産霊の人ろなオあ〳〵たりふをとるなありのく、そのやうちありそこれを得るべきこれを得ざ、これをえるべこれをえぬものまく。わが得るこをのこたりもいるより鼻ハいろづくよりく、のこなりもくなりつねよえぬこをのこ行ひてあるべし。

ことを思ひよくいまだくも書ハよくらよくどろぬこぐひあり。
書ハよくくよくとくも留ハよくもふるぬこくひあり。ラよく
いまだくもこづくハ思ひよくいまだと於もいで。書のよあぬこと
於もひこくあるべし。書よくくよくとくくを留のふれぬこと
を於もひこくあるくし。留よくふくくを思のいれぬこと
を於もひてあるべし。於ぐくいまだるるもちぢらつきく
くありまとよくあつるくあり。きこのえてるこをを
ハ於もぐえぬこをを於もひこづるこをを於ちづむ

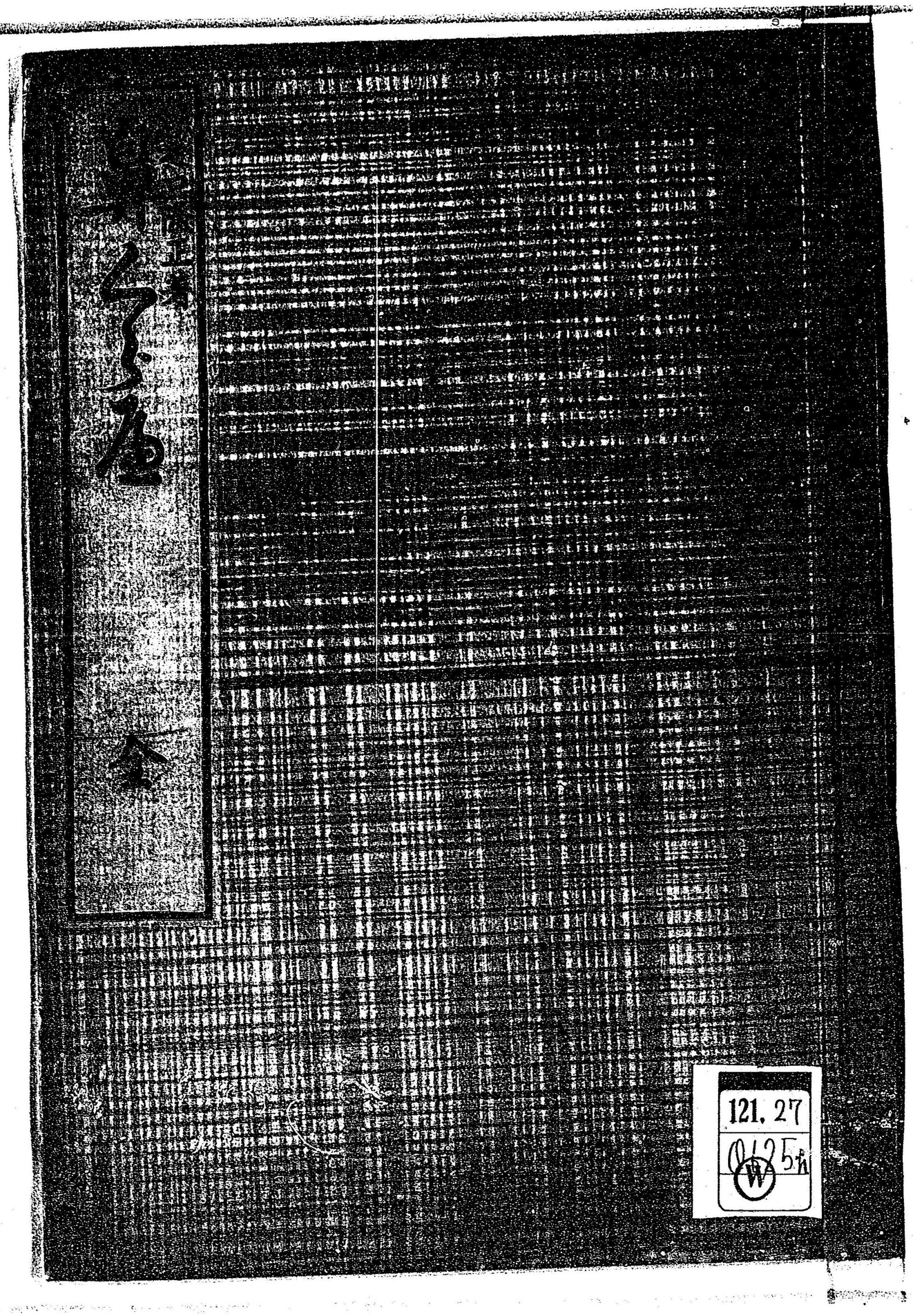
べしとのこまのゆかこまりぬとりつと於くを見ハきめ
ぬ。こまりをバ金毘羅の神の廣前まであり。世の
中は我のこあのしりなりと於もひをりし見もさめく。
かこ此ときつこり。見のきしいづをバ法前よりよろびト
て立いてこもとの。こ刃をくよくり。前をつこしこをよろブ
刃のこあるなりぬべきこをなんころりけりこをそ

天保五年なるべき末世のものとぞいふべくもなくよろぼきこゝろもなくて花くなるあり。
いとぶれまうけるきさしまり。ほきりでありとおもふことも
の人はふこゝろきハあいぬものなり。
猶四季と金毘羅の神とを眞ごゝろ
ゝのれハいとゝあるんをりまうらぐべし。

和漢洋書籍所

京都三條通寺町西入南側

開益堂　細川清助



009023-000-4

121.27-0625h

鼻くらべ

大国　隆正／著

刊年不明

AAD-0174